

1 事業の成果

国内事業

「地球のステージ」公演

国際理解教育プログラム「地球のステージ」の年間実績は153回となり、前年度より1回の減少となった。そのうち約7割が学校・PTA主催であり、教育現場内での需要が多くなっている。神奈川県内での開催が16回と最多であり、今後も地元である神奈川での開催に力を入れ、国際理解はもとより、人権・命の大切さなどについて伝えていく活動を行っていきたいと考える。

また、中学校では会場での質疑応答、高校や大学では希望者を募って交流会を行うケースが多くみうけられ、公演内容や活動への疑問だけでなく、進路相談や生活相談になる場としても有意義な時間となった。

「語り部講演会の開催」

「地球のステージ」の公演とあわせて、東日本大震災のことを伝える語り部講演会を開催。2017年度は3箇所、それぞれ30分ほど、自らの体験や今の思いなどを語る機会があった。舞鶴では自主企画公演（330名参加）、学校公演（430名参加）の2ヶ所、御殿場はガールスカウト主催の公演（300名参加）。語り部さんにとっては自分の心の整理につながり、聞き手にとっては、被災者の方の言葉を直接聞く経験は大変貴重であり、今ある自分の生活を見直すきっかけを提示することができた。

東日本大震災復興支援事業

名取市閑上において津波復興祈念資料館「閑上の記憶」を運営。地元で被災された方々が語り部や案内人となり、「生の語り」を行い、全国からの訪問者を受け入れながら、震災時の状況や防災に繋がる話、いのちの大切さを伝える活動ができた。加えて、被災地で深刻化している心の問題も大切な課題として取り組んだ。「語る」ことで心の整理が進められるように、被災された方たちへ「語る」機会や場所の提供を積極的に行った。

・来館者数

「閑上の記憶」来館者数 13,049名

・プログラム実施回数および参加人数

案内ガイド 161回 のべ3,643名参加

語り部講話 60回 のべ1,323名参加

語り部の会 21回 のべ289名参加

閑上ウォーク 9回 のべ145名参加（7月～、月1回程度開催）

・出張語り部講演会

実施回数 14回

参加人数 2,670名

語り部 4名

新規語り部 1名

・3月11日追悼のつどい

みんなのこと、わすれないよ～景色は変わっても、想いはかわらないよ～開催。閑上中学校遺族会をサポートし、2017年度も遺族の方々に寄り添いながら3月11日を過ごすことができた。

地域学校協働活動推進事業

地球のステージ公演、「閑上の記憶」の語り部による講話を行い、宮城県の重点取組である「学びの土台づくり」「志教育」をテーマに教育現場と一緒に学びの場を作る事ができた。

県内の小中学校 10 校に震災学習を提供し、約 2,700 名が参加した。

アンケート結果：

「他人を認めてあげることで相手の気持ちも和らげてあげられると知った」

「改めて命の大切さを感じた」「命を守るための防災減災の活動へつなげたい」

「命を粗末にするような言葉を使わないようにする」等

「いのち」について真剣に考える機会を提供できた。沿岸部の学校での開催も叶い、震災学習を避けるのではなく、向き合う教育に貢献できたと考える。

海外事業

東ティモール事業：

- ・ エルメラ県の保健事業に関わる全ての人（県保健局長、郡保健センター長、医療関係者、PSF、村長、神父、警察官など）による全体会議を実施（ステークホルダー会議）。参加者により保健事業における課題を共有し、解決策を講じた。また、緊急体制連絡網を作成し、県内の医療体制を整備した。
- ・ PSF 能力強化研修を 4 回にわたり実施。
 - ① 保健・衛生の基本から指導法を実施。参加者の 8 割が能力の向上を認めた。
 - ② 桑山専門家の指導の下、PSF のモチベーション向上を目的とした「PSF の歌」を作成
 - ③ テング熱やマラリア、歯科衛生についての講義を実施
 - ④ 低栄養患者に対するフォローアップ法と、健康教育についての演習を実施した。
 - ⑤ 結核、家族計画、出産リスクに対して、PSF への講義と演習を行った
- ・ 保健政策専門家として村上専門家を派遣し、保健省職員に対して PSF 活動の重要性について講義を実施。同時にフロントラインの活動報告会を実施した。
- ・ 医療者勉強会を実施。事業対象となっている 10 村の村長、医師を招待し、地域保健サービスにおける協力関係について議論した。
- ・ PSF 交流会を実施。PSF の 8 割以上が出席し、エルメラ県保健局より PSF 認定証が授与された。

パレスチナ支援事業：

パレスチナ自治区ガザ地区とヨルダン川西岸地区の 2 地区にて心のケアの取り組みを行った。

ガザ地区では、過去 3 年間の経験を活かして人材育成に重点を置き事業を実施。ヨルダン川西岸地区のラマッラ市に新たな拠点を設け、2 つの難民キャンプの子どもたちに対し、心理社会的ケアクラスを開いた。

<西岸地区>

- ・ プログラムを通して子どもたちの素行改善、聞く力の向上、自分の内面と向き合い心の内を表現する力の向上が見られた。
- ・ これまで実施した説明会やミーティングにおいて、とても必要なプログラムであると高評価を受け、現地のニーズに即した事業であることを確認できた。
- ・ 現地スタッフにおいては、映画撮影に対して非常に興味を持って取り組む姿勢が見えた。
- ・ 12 月に派遣した村松専門家は、ロールプレイとスーパービジョンを中心に指導を行い、現地ファシリテーターたちは、実践的にファシリテーション手法を学ぶことができた。

<ガザ地区>

- ・ 安心感があり語りやすい環境を整えることにより、描画や粘土の作品にも伸びやかな表現が伺えるようになった。
- ・ サマーキャンプを通じて、ケアに参加している子どもたちの交流が深まり、新しい刺激を受けることにより、深い内的洞察を行なうことができた。
- ・ 研修生に対して、現場指導を実施することにより研修への意欲と責任を生み有益な学びとなった。

ミャンマー里親学資支援事業：

ミヤッセ・ミヤー村の中学校3年から高校2年の生徒を対象に、月々かかる通学費用と学習資材費を支援するため里親を募集し、34名の生徒を支援することができた。

中学生 Grade8：9名、Grade9：13名

高校生 Grade10：7名、Grade11：5名 計34名

支援を行った生徒は学期途中で辞めることもなく修学し、進級することができた。

2 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

- ① 映像と音楽を組み合わせた国際理解教育プログラム「地球のステージ」シリーズの開催に関する事業
- ② 「地球のステージ」に関する情報提供、交流事業等の実施に関する事業
- ⑥ 「地球のステージ」シリーズに関するCD、絵葉書などの有償提供

ア 地球のステージ公演事業

- ・ 事業内容 国際理解講座「地球のステージ」開催
- ・ 日時 通年
- ・ 場所 日本全国の学校体育館・公民館・ホールなど
- ・ 従事者人数 約4名（1公演）2名（マネージメントスタッフ）
- ・ 対象者 学校の生徒とその父兄、一般参加者 約50,000人
- ・ 支出額 38,813,739 円

- ③ 医療・教育・職業訓練などを通しての国際支援事業
- ⑤ 途上国支援、自然災害時における救援活動への募金活動

ア 東ティモール支援事業

- ・ 内容 エルメラ県における包括的地域保健サービスと家庭医制度を通じた地域保健ボランティア育成向上事業
- ・ 日時 2017年4月1日～2018年3月31日（継続）
- ・ 場所 東ティモール民主共和国
エルメラ県ハトリア郡10村（パラミン村、ウラホウ村、レギミア村、コリアテ村、アスラウ村、マヌサエ村、ハトリア村、ファトボル村、ハウプウ村、サマラテ村）
- ・ 従事者人員 日本人スタッフ3名、東ティモールスタッフ16名、
- ・ 対象者 直接裨益者：PSF 61名（うちPSF指導者10名）、
保健センター職員12施設 約20名
間接裨益者：事業対象地の住民 約33,000名
- ・ 支出額 23,957,918 円

イ パレスチナ支援事業

- ・内容 ガザ地区・ヨルダン川西岸における危険地帯居住児童に対する心理社会的ケア及び実践者育成事業
- ・日時 2017年4月1日～2018年3月31日（継続）
- ・場所 西岸地区 ①ジャラゾーン難民キャンプ ②ラマッラ市 ③カランディア難民キャンプ
ガザ地区 ①ラファ市 ②ハインユニス市
- ・従事者人員 日本人スタッフ4名、現地スタッフ13名、
- ・対象者 直接裨益者：699名（ガザ地区、西岸地区のケアクラス対象児童及び研修生）
間接裨益者：8,940名（ケアクラス対象児童の家族、研修生が本事業外にケアクラスを行う場合の対象児童）
- ・支出額 41,130,280 円

ウ ミャンマー里親学資支援事業

- ・内容 ミャンマー中部ミャッセ・ミャー村の中学・高校に通う生徒の就学支援
- ・日時 2017年4月1日～2018年3月31日（継続）
- ・場所 ミャンマー国 シャン州 ミャッセ・ミャー村
- ・従事者人員 日本人スタッフ3名、現地スタッフ1名
- ・対象者 Grade8（中学3年）、Grade9（中学4年）、Grade10（高校1年）、Grade11（高校2年） 計34名
- ・支出額 1,719,608 円

④自然災害時における救援活動に関する事業

ア 東日本大震災復興支援事業

- ・内容 津波復興祈念資料館「閉上の記憶」の運営ならびに被災者支援
- ・日時 2017年4月1日～2018年3月31日（継続）
- ・場所 宮城県名取市閉上、出張語り部は各依頼者の設定地
- ・従事者人員 フルタイムスタッフ1名、パートタイムスタッフ6名、
- ・対象者 全国各地、全世界からの来館者 13,049人
（案内ガイド 161件、3,643人、語り部の会 21回 289人、語り部講話60回 1,323人含む）
出張語り部の会 14回 2,670人
- ・支出額 8,429,334 円

イ 地域学校協働活動推進事業

- ・内容 「閉上から津波を通していのちを考える会」を学校現場で実施
- ・日時 2017年9月1日～2018年3月31日
- ・場所 宮城県内の小中学校体育館（仙台市を除く）
- ・従事者人員 フルタイムスタッフ1名、講演者1名、語り部 2名
- ・対象者 宮城県内の小中学校（仙台市を除く）
10校（団体）に震災学習を提供し、合計で2,700人
- ・支出額 3,671,000 円